

# 過活動膀胱について

済生会今治病院で泌尿器科を担当する多田靖弘医師が、頻尿や尿失禁を伴う過活動膀胱の予防や治療について教えてくれました。



▲多田靖弘医師

場合に行われる治療法です。

この治療法は飲み薬ではなく、膀胱鏡というカメラを用いて膀胱の筋肉にボツリヌス毒素を注射する方法です。実施に際しては、脊髄麻酔、全身麻酔のいずれかを行います。膀胱の筋肉に細い針でボツリヌス毒素を神経因性過活動膀胱の場合には300単位を30箇所に分けて、特発性過活動膀胱の場合は100〜150箇所に分けて注射します。一度です。一回の投与で治療効果は約6〜9ヶ月持続すると考えられます。ただ対症療法ですので、効果持続期間をすぎると効果消失し、繰り返すし行う必要があります。また効果が不十分な場合でも前回投与より3ヶ月経ていれば再投与を考慮します。

過活動膀胱とは尿意切迫感が強く、多くは頻尿や切迫性尿失禁を伴う状態のことを言います。外出がためらわれたりする場合が多く生活の質が著しく損なわれます。今回ご紹介するボツリヌス膀胱壁内注治療法は行動療法や、飲み薬、張り薬などで十分な効果が得られない場合や副作用などで治療継続が難しい

手術時間は10〜20分程



ぼうこうきょう  
膀胱鏡

ぼうこう  
膀胱の筋肉に20〜30カ所注射

ボツリヌス毒素注入療法の副作用としては、膀胱炎などの感染、残尿量の増加、尿が出なくなる尿閉などが挙げられます。この治療で過活動膀胱の治療の選択肢が増えることは何よりです。頻尿や切迫性尿失禁でお悩みのある方は泌尿器科を受診してください。

社会福祉法人



恩賜財団

済生会今治病院

今治市喜田村7丁目1番6号

<http://www.imabari.saiseikai.or.jp/>

☎0898-47-2500

